

洛星新聞

発行所

ヴィートル学園

洛星中学校



編集者

洛星中学校

新聞部



憬 眞

本校の生徒は
プライドを
持ちましよう

押山 銈一

本校の生徒諸君は入学の時から他の学校と違つて筆間筆答による入学試験の難関を突破し、入学後は力トリック的教育をうけて学力方面は申すに及ばず訓育方面に於ても特色ある育成を受けつゝあります。従つて生徒諸君は学校で勉強する時にも、家庭に在る時にも、電車やバスに乗つて居る時にも、途を歩いて居る時にも、いつでも「私は洛星中学校の生徒である」と云う氣持を決して忘れない様にする許りでなく、進んで自分の地位を高く持つ様に常に心懸けなくてはなりません。

先達マッケーシー神父様の御講話にもあつた様に「あの人はマー普通の人ですよ」と云われない様に努めましよう。いつもお話している通り諸君は本校の第一期、第二期の

卒業生即ち先輩となるべき人入です。君達が今こゝで立派な校風を建てなければ誰れが建てるのでしょうか。実に諸君の責任は重且つ大であります。幸にして次第に諸君の理解と協力とに成つて着々堅実な校風がつくり揚げられつゝある事は御同慶に堪えません。然し私達は決して現在に満足する事は出来ません。もつともつと奮発して洛星の名聲を世間に高揚する様に一致協力して努めましよう。なぜならは学校の名声が揚れば結局諸君の将来に幸福をもたらす事となるからです。それには前に述べた通り「私は洛星中学校の生徒である」と云う氣持を寸時もわすれずセントルマンシップを学生時代からつくりに、プライドを持つ事に依つて始めて実現される事を確信します。

洛星の健児よ、プライドを堅持せよ。

パンセ

奥本 裕 昭

神様は人間にだけ智慧と角

由意志とおおたえになつて、此の世に送りだして下さいました。なのに、その神様について何も学ぼうとしないばかりか、あたえて下さった智慧と自由意志を全くあらぬ方向に用い、神様の秩序を乱している人がどれだけあるでしょう。さつと自分の自由意志だけで、自分の存在が与えられた事に思つてゐる人達でしょう。

神様は、動物や植物には、智慧や自由意志をお与えになりませんでしたが、それがく、素晴らしい本能や性質を豊かにお与えになつてゐるのです。私達は、蜂が六角の美しい巣を作ったり、くもが虫けを食べてゐるのにあつた細い糸で美事な網を作ることにはよく知つてゐます。併し、私は此の間ウゴリン・ノル神様の「世界の観の研究」を拾ひ読みしてゐた時、次の様な面白い話に氣を引かれました。即ちカケス類の或鳥が、落ちた餌の実を一つ一つ拾つて、その木の周囲に一定の距離をおいて並べると云ふのです。すると神様のお定めになつた自然の法則に従つて、その種は発芽して成長し、更に、その実は鳥の餌になり、鳥のフンとか屍体は木の肥料となるので、この様な鳥と木の、即ち動物と植物の計画的な相互作用は、第三者の計画に順応してゐる事実を示すものに他ならな

いと書いてありました。

この様な話を読んでいますと、特別に智慧とか自由意志を与えられた人間が、この素晴らしい賜物を全然意識しないと云う程、おかしな事はあります。

私達の今日の存在を与えて下さつた神様に、与えられた智慧と自由意志で仕え、又私達の仕んでゐるそれだけの社会に、そして人々のために最善の努力をいたしましょう。

一九五三・十一・五

花と音楽

小田 敏雄

私達の生活に切り離す事の出来ない多くの物の中でもことに私達にうるおいはけましくとやすらぎ、落着等を与えて呉れる音楽と色々の花を忘れる事は出来ません。花は、花にも色々ありますが、有名なもの、又名も知られないでしかかも金龍の神の恵のうちに可憐な色をつけ、ひそやかに山や野辺に咲いてゐる花など……なかでもバラは百花の王と言われます。純白、ピンク、黄色、真紅、とその色もとどろりですが花弁は皆美しく、香り高く、まことに春のシンボルのやうに、音から私達若い男女の心をひきつけていろいろ

ろのロマンスを生んで来ました。そしてこのバラを歌つた詩人や作曲家たちも数知れないのです。又バラ丈でなく歌劇構想の様に他の花も多く取材されてはいますが今日はバラと音楽について考えて見ましょう。

面白い事にバラは附けられた名前も音楽に關係のあるものが少くないのです。たとえばパッサハと言うものもありノクターンやワルツ、プリマ・ドンナなどと呼ばれる花たちもあり、又昨年来朝した美しいソプラノ歌手ヘレン・トローベル女史の名前そのまゝの美しいものもあるのです。バラの美しさと音楽の美しさ……そこにはたしかに共通したものがあるにちがひありません。シューベルトの野バラは彼が十八才の時ゲーテの詩につけた歌曲で少年が野原でふと見つけた可憐な野バラをどうしても欲しくてたまらずつい手折つてしまふと言ふ意味のもの、又ウェーバーも「野辺に咲くバラ」と言う曲を作つてゐます。これは香り高いバラを手折ろうとしてそのトゲに刺されあきらめてしまつたが強い日光の為に、この美しいバラもいつの間にか色あせ、しぼんでしまつたと言ふのであり、シューマンはその名曲「私のバラ」の中でバラの美を「三月の宝石」とたとへ、他の作曲家の歌曲の中でもバラの歌はみな限なく

美しく書かれてゐます。バラの花とは、美、愛、恋……、とそのままに。

しかしオペラ「カルメン」の様に妖艶なバラが彼の心を虜をうけ、ついにはカルメンを殺してしまふ悲劇ともなるとバラ一輪もおそろひには扱えなくなりまね。私達には大きな魅力を持つてゐる美しいバラにもするどいトゲがあると言ふ事を忘れないでよい教訓として貰ひたいと思ひます。又江派の大輪の名花を作るには一朝一夕には作れないで何ヶ月もいや何年もの間あらゆる苦心の結晶生れると言ふ事私達の音楽にも同じ事が言えると言ふ事をも忘れずに共に頑張つて行きましょう。

銀貨と銅貨

横山 哲夫

アメリカの大統領となつたジョンソンは、小さい時分からウズノ口だと評判されておました。ある時近所の一人の小母さんがジョンソンに大きな一セント銅貨と、小さい五十セント銀貨を見せ、「お前どちらが欲しいね」と尋ねますと、ジョンソンは、「大きい方」と答へて、価値の少ない銅貨の方を言ひました。之を

足跡

満



みのり

二年C組 増田 満

聞いた近所の人々は、皆この馬鹿な
ジョンソンをからかふために、大き
な銅貨と小さい銀貨を持つてきて、
「どちらが欲しい」と聞き出すと、
何時でもジョンソンは「大きい方」
と答へて、銅貨の方を買ひました。
そこで益々沢山の人がジョンソンを

からかふ為にやつてきました。たま
りかねたジョンソンのお母さんが、
或る日「お前、馬鹿だね。銀貨はい
くら小さくても、大きい銅貨よりづ
つと価値があるのだよ。どうして銀
貨の方を買はないんだね」と云ひま
す。ジョンソンは、「だって、若し

だが、やがて二度、三度と罪惡を
重ねるうちに、とがめる心は薄らぎ
ついに恥ぢないようになる。なん
とおそろしいことだろう。どんな悪
人であるにしても、生れながらに悪
心を持つてゐるものはない。
幼児の心——それはこの上もなく

僕が銀貨の方を買ふと
皆が、からかひに承な
くなるものと答へま
した。皆さん君達がど
んなに「あいつは、ウ
スノ口だ」と思つてあ
る人でも何か優れた才
能を持つてゐるもので
す。決して、人を馬
鹿にしない様にしませ
う。

心

二年C組

高島

章

人間は成長するにつ
れていつのころからか
知らないが、うそをつ
き始める。最初は自分
の古のおかしな罪の、
余りにも重いことに驚
いて、強く良心がとが
めるに違いない。

純潔であり、又、最も貴ぶべきもの
なのだ。

母のふところに静かに眠つてゐる
赤ちゃんの心……それは春の雪の精
である。

大聖人も文豪もまた、大罪惡人であつても、母のふところに眠つてゐた時は、いちように白絹のように純潔の心を持つてゐたのだ。

しかしやがて、その心には、拭うことのできない汚点がひろがつて行く。

そして自分の行くべき道と一つの正しい道を失うのである。人は生れながらにしてそなへてゐるこの貴い宝を、そのまゝ、きよらかに保ち続けに行くことは非常に困難である。これをなすうる人は聖人であり、また賢者である。聖人賢者の修養は、純正な心に帰ろうとする努力である。

人格の向上、知識の開拓等は、その本来の目的に向うための単なる一手段に過ぎない。

虫

一年B組 村岸 浩一
死にかけてゐる

完

かごの中の虫
かわいそうに
にがしてやろうと思つて
かごから出してやつた。
にがしてから思つた
今のはいなごだろうか
いなごだったら逃がさなければ
よかつた。

雨

一年C組 藤田征宏

床から起きると

耳にさわる音がする

ボト・ボト

「兄ちゃんあの音?」

「雨だ。」

せつかくの休みがむだになった。
くやしい雨だ。

秋

一年A組 森宗 勳

窓に腰かけて、空を仰げば月が丸
い。向うの家の窓から青い光がもれ
木の葉の夜つゆがさうりと光る。屋
台店のチャルメラの音、犬の遠吠が
しめつぽい空気をかすかにふるわす。
こういう時に、一人の反響を思い

出す。頭はよく空かつた。そして色
が黒く、骨と皮のようにやせていた。
僕のことを「しんちゃん」と呼ん
でいた。「お父ちゃん、は行商人で
お母ちゃん、は買出部隊や、なれにも
言うなよ」と。或る日見晴しのよい
岡の上でうちあげた。僕は「ふん、
と、感心した。宿題も一しよにした。
ある時は、朝早くから、一しよに
自動車、のけいこにいつた。そして、
いつの年だったか、ちようと、夏休
みもすんだ。よく晴れた日に、所も
告げず、去つていったのだ。

一年A組 山元清重

僕は秋になると思ひ出す事がある。

それはある日曜日の事だった。

僕はさぞい合はれた友達三人と
山にくり取りに行つた。その山は、
音からたぬきの居る山として知られ
て居て、たぬき谷と言う谷もある。

僕ははその谷に入る事にした。僕は
たぬきを見た。とて仕方がなかつた。

うちはそつちのけで山に入つた。や
や色づきかけたどんぐり杯をぬけて
行く。そこには、あるわあるわ山

のくり。僕はむちりうで拾つた。
すると後の方でガサガサと言う草を

分ける音がする。見ると落葉の陰に
黒い物が動いて居る。僕は「たぬ

きめ」と音のした方に走つた。と、
そこから、ぬーと人の顔があらわれ

た。僕は「ギョッ」とした。いやギョ
ッとする間もなかつた。「こら人の
爪には入るの、はだれや」と言う声、
僕は「ふん」ともナイフもみんはほ
り出してにげて帰つた。

それから四五日たつて友達の家へ
遊びに行つた。家にあがつて、ふと
なやの方を見ると山で見たおじさん
がいた。僕は変な気持ちで家へ帰つた。
秋はいつもこの思い出を蘇らせる。

ローマ

について

二年B組 三巻弘忠

誰をもよく字を忘れて不便な思い
をしたことがあると思う。僕はいつ

も字を忘れる毎にこれがローマ字だ
つたりなアと思はず歎息を洩らす。

国字は将来どうしてもこれはローマ
字にしたい。僕は日頃考へている。

勿論ローマ字の中でも気に入らぬ字
は数々ある。第一に、K、という字

である。いかにも学問を鼻にかけて
るといった親しみのない字である。

因果なことにローマ字には、K、
の字がむしうに多い。K、を、

C、にとりかえら一段とローマ字が

ひきたつて、やさしい親しみのある
ものになる。しかし、C、Ceをギ、ケ

と読むのは少し無理だ。僕はこれを
Ci、CeとCの上に濁りをつて現は

した方がよいと思う。Ca、Ci、Cu、Ce
と書く。キケは特殊の発音だと

言う事が一目して分るから便利であ
る。チツ、なんかも、tuと濁り

をつて特殊の発音である事を知
ることが出来るから便利である。同様

ザジズゼゾも、S、の上に濁りま
うつてSa、Si、Su、Soとする方がZを

使つよりもやさしみのある字で感じ
がよい。それから Kyu、Kyo、Sya、

Syoという字は実に醜い字づらである。
これは Cia、Cio、Sia、Sioと ia、

io という字をつくるべきで、これな
ら見た目も美しいし、拗音の感じが

つたりよく現われてゐると思う。
それから平仮名の「わ」と同じ実

いやを感じのする。Wa、がある。こ
れは、Va、とすべきでVはラテンで

母音にもなれば、子音にもなるとい
うから、VaはVaのままにひたり「わ

である。そんならヴァイオリンのよ
うなVはと云うとVと同じに、V

に濁りをつて、V、とすればよい。
ヴァイオリンは「vaiole」と書

くのである。同様 Va、yu、yo は ja
ju、jo と書くべきで、J はラテン

で子音の、J、であるというから ja
ju、jo まさにヤユヨである。それか

スポーツ

朝

ら庭音である。人への答へに「ははは」と「ははは」は「ははは」とでは語感がまるでちがう。「ははは」は「ははは」は「ははは」のツにならつて、ノッともいいた符号を二しらえて ha・ha・ha とすればよいと思う。これなら日本の「ツ」と同じで全く便利である。

以上のような事を改良すればローマ字は将来にっばな便利な国字となり、字を忘れてまごつくことはなくなるだろう。

一年A組 大原謙一郎

おどろくほど明るい朝だった。
井戸水が指の骨にまでしみ入った。
袴の葉が黄緑に充ちていく。
柿の中から飛び出した雀が、
真青な空に向って行った。
急のかべがひっくりするほど
白かった。

オニ
秋季

大運動会

終る

小西博 著
曉秋に先がけて創年と

こども、一斉に行われる運動会が、
洛星中学校に於ても十月二十一日ザ
イアートル学園の祝日に、や、小雨
気味ながらも無事に終ったことは、
まづ天竺の御恩みと感謝せずには
おれないのである。

本運動会は、昨年より一学年増え
た故もあって、仲々にぎやかな催が
出た。が此の広い運動場では、そ
れでも何かたりない気がしたのは、
私一人ではなからう。しかし一年毎
に、弟が出来てくるわけで、終いに
は狭い位のところまでいくのも、そ
う遠くはない筈である。特に此の運
動会を通じて印象深かつたものを拾
つてみると、此の頃何処へ行つても
恐らく見られない入場式のあの場面
である。

クラスの先生の旗を先頭に、各自
がめい／＼小旗をもつて入場する様
は、まさに威風凛々としたもので、
私もそれを思わせる威風凛々な行
進であつた。

車止めて見て行つたに違いない。
実に壮快極まるものがあつた。
また各組独特の応援も見えたえあ
るものがあつたのは嬉しい。

来賓のことをいうと「鬼が笑う」
とかいうけれど、また一つにぎやか
な、おもしろい運動会が開けるよう
に、お父さん、お母さん、お兄さん
お姉さん、それに坊ちゃん、嬢ちゃん

に、今から奮つて、出て頂く約束を
しておいて貰いたい。

運動部めぐり(上)

(送球部、庭球部、排球部の巻)

▼三都府目指す送球部

来る十二月月上旬開かれる京、阪、
神、中学三都府対抗の京都代表にな
らうとして来る九月以来黙々と汗の鍊
習を続けるハンドボール部は七月十
五日終了してから約四ヶ月、その躍
進は目まぐるしいものがあり、過去
の成績四勝二敗一引分けと、日浅さ
までもその勝望を現していることは
多いに賞讃されてよい。

FWに斗志満々の三巻を中心、ミ
將浪越と金光をコンビとするセンタ
ーズリーを、三軸として、得点をた
たき出している。特に先取得点をあ
げて全ナインの気をはく金光のシエ
トはスピードに於ては高校級の威力
があるのは事実である。又最近ジャ
ンプシュート至ものにした浪越は多
いに活躍してくるものと思う。

両ウイングには、大もの、小もの
の中山、豊崎と仲良く佐竹の後をカ
バーしているが、もう一息の奮がす
る。それに大板を加えれば、かなり
の實力をつけることが出来よう。
又新人佐藤の活躍も待たれる。

H Bに林・沼・谷口・吉川と交代
の余裕をもっているが、もう少し覚
強いところが欲しいものだ。
F Bに田口・津田と何れもデツカ
い巨体を誇るが、敵のFWを悩まし
ているが、時々大きく左右にふられ
る苦言をこうむることがあるが、仲々
の愉快なF Bがそろつたものだ。

G Kには感じのよい野村幸をおき
ラッキーボーイの名を頂戴するかも
知れない。彼がジャンプ・ストップ
を体得すれば、FWを大分助けて来
れるわけで、固く待たわびている次
第だ。強いて全体的に難を云えば、
FWの突込みが足らぬこと、攻撃
にスピードが欠けていることであろ
う。また、FW・F Bとも最級まで
喰いついていこうとする根性に上
しいことである。矢張り青木の違
う精だろうか……。

何れにしても、今後全ナインのチ
ームワークとその練習量がその榮
冠をねらつていようには考えられる。
▼庭球部 本格的なコートが
ないため、ヨゼフ修道院を借りたり
しながらも三十人余りの人員で練習
に励むのは、全く同情にたえない。
それにしても同志社で行われた招待
試合には三チーム共によく健闘。
特にナンバーワンの野村・中村(哲)
組は二回戦で本場する勢を演じた。
特に後衛、中村(哲)は二年生

の部員をしのぐ程の技術をもつてい
るのは注目される。彼の出身校がテ
ニスの盛んな衣笠小学校だからうな
づける。しかしや、体が小柄なため
サーブが蹴球ではあるが、ネットす
るので、試合には、やゝ不利である
が、それを前衛野村がカバーして、
ナンバードワンチームにふさわしい
コンビをなしている。

それは、主将堀以下、高島、安岡
形本、片岡、武田と将駒豊實に、そ
ろえている。十一月八日の大会には
新人片岡が一役、後衛をかつて出よ
うというわけで、その活躍が期待さ
れている。今体的にみて此のチー
ムは小粒ながらも、気性のよくまと
まったチームで仲々、品をみせて
いる。さういふチームであるだけ
に、案外早く上達する可能性をもつ
ているように思われ、これからの、
試合なれと共に、他校の勉強を怠つ
てはならないと思う。

▼排 球 部 云々十月二十四日
とりの衣笠中学と初戦、練習試合
を本校コートで行ない2対0とシヤ
ット・アウトで敗れたが決してこれは
女性声援に預けたのでも何でも無い。
実力の相違で負けたのだ。しかし、
それ以後、部としての動きに活気を
おびて来たようで誠に結構なことだ
ある。此のチームは、主将奥山を
中心に前野・中川(益)・田中(享)

山崎・沢山・大川・面田・中村(壽)
今井とメンバーこそ、余り衆ではな
いが、本当に地味な、色で例えるな
らばコゲ茶色とでもいうか、さうい
うチームである。中でも中村(勝)
一は野球部を退いて以来、此のティ
ームに加わり全くピカ一の存在で、
随一といわれる位、すべての期待を
よせている。

此の部は試合経験から云つても又
練習量からしても確かに今後の動き
に注目が引かれ、将駒の少ない奥山
うまく生かして、個入々々の将駒を
伸ばすことによつて、牙を出すか、
出さないかその練習量と方法に問題
が決するといふのも過言ではなから
う。

各運動部共、是非一つ、大きく、
伸び伸びと明るく、スポーツマンら
しく、踏み出して欲しいものだ。

(K生)
(次号は陸上競技部、野球部、ソ
フトボール部の巻)

図書室 ニュース

希望図書の中、下記の本が入りまし
たのでお知らせします。

辞

典
全国方言辞典
民族学辞典
芸 能辞典
日本美術辞典

自然科学

初等天文学講座
図説天文学講座

(1) 天球と星座
(2) 遊 星
(3) 恒 星
(4) 太 陽

語

学
古英解釈のための日本文法
日本文法
言葉の使い方

文

学
現代詩講座
(1) 詩とは何か
(2) 詩の技法
(3) 詩の鑑賞
(4) 海外の詩

源氏物語
土佐日記
伊勢物語
竹取物語
蜻蛉日記
萬葉集

二巻

先般生徒会で毎日図書室を開いて
との希望がありましたので一
年生から七名の図書委員を選び毎日
午後四時から五時まで図書室を開い
て居りますので大いに利用して下さい
(土曜日は午後二時から三時半ま
で)又希望する図書がありましたら
図書室内の「希望の図書」の箱に学
年のみ記入して入れて下さい。

連絡板

十二月十四日(月)

期末考査

十二月十九日(土)

